

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

一般社団法人Fora

【サービス名称】

学校伴走サービス、「個人探究」伴走サービス
AI添削サービス「AI-Bou」、探究TAサポート、キャリアゼミ（事後学習付き）

【サービスの支援項目】

カテゴリ1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス
カテゴリ2-1 教職員の業務効率化・省力化 メインサービス



2026年1月

■ 探究・校務改革支援サービスの概要

本事業におけるForaの支援は、学校のカリキュラム設計から実装・評価・自走化までを一体で支援する「学校伴走サービス」（カテゴリ2-1）と、その実現を支援する「探究支援サービス」（カテゴリ1-1）から構成されています。

1. サービスの概要、特徴（一覧）



学校伴走サービス

カテゴリ2-1

総合的な探究の時間を総合的にサポート
教育目標、カリキュラム、教育評価までを一貫支援



「個人探究」伴走サービス

カテゴリ1-1

探究学習や進路選択のための学習教材を提供
一人一人が自分のテーマから、進路に繋がる探究を目指す



AI添削サービス「AI-Bou」

生成AIを活用した添削サービスを提供
生徒一人一人が活用でき、探究のブラッシュアップを行う



探究TAサポート

ティーチングアシスタントによる探究相談サービス
生徒に個別面談を行い、探究のブラッシュアップを行う



キャリアゼミ（事後学習付き）

進路や探究の動機づけのための出張授業サービス
ワークショップ型プログラムで、動機づけを目指す

1. サービスの概要、特徴（詳細）



学校伴走サービス

(1) 特徴:

学校に合った探究学習の実施、改善、継続、組織化を進めていくためのトータルなサポートを実施。教育目標整理からコンテンツ開発、教職員研修等を含みます。

(2) (3) 効果・活用:

通年での伴走支援や教職員研修などを通じて、学校の自走化の促進、高校等の魅力化を目指して実施されます。

(4) 価格: 22万円~/月額(税込)

「学校伴走」は、一般社団法人Foraの登録商標（登録第6966788号）です

2. サポート内容（全サービス共通）



定期的な利活用の相談、利用方法の問い合わせ、技術サポートを実施しています。また学校伴走ではコンテンツ開発などを行っています。担当窓口を起点に、社内外と連携を行いながら、学校での円滑な実施やニーズに沿った支援を行うことを目指しています。

※記載内容は、サービス料金に含まれます

■ 探究・校務改革支援サービスの概要

探究支援サービスは、目指したいカリキュラムや目標を実現するために、個人探究用の教材提供・AI活用・TA支援・キャリアゼミを通じて、生徒の探究の質を高めると同時に、教職員の負担軽減を提供しています。

1. サービスの概要、特徴（詳細）



「個人探究」伴走サービス

生徒一人ひとりがテーマを決め、問いを立て、仮説を考え、検証、考察を行う一連の個人探究（マイテーマ探究）を支援するサービスです

- (1) 特徴：
個人探究に特化した教材
“わくわく型”と”もやもや型”
で生徒たちの探究を推進
- (2) 効果：生徒の個人探究の推進
教職員の教材開発負担の軽減
- (3) 活用：高校1年生～高校3年生
個人探究で活用
- (4) 価格：208円～/月額（税込）



AI添削サービス「AI-Bou」

生徒たちの探究促進に特化したAI添削サービスです。汎用的な生成AIにありがちな学習（使い込み）による評価バイアスを避け、客観的な評価を重視するサービスです

- (1) 特徴：
成果物にフィードバックを実施
24時間365日いつでも添削可能
使い込みによる評価の歪みを防ぐ
- (2) 効果：生徒の個別指導の推進
教職員の個別指導の負担軽減
- (3) 活用：高校1年生～高校3年生
探究でも進路でも利用可能
- (4) 価格：1,100円/月額（税込）



探究TAサポート

大学生や大学院生のティーチングアシスタントによる個別相談サービスです。授業中での複数人のサポートや授業外のオンラインの個別相談を行っています。

- (1) 特徴：
授業に合わせてサポートを実施
生徒の探究段階に合わせ指導
オンライン体制で個別相談も可
- (2) 効果：生徒の個別指導の推進
教職員の個別指導の負担軽減
- (3) 活用：高校1年生～高校3年生
伸ばしたい生徒への対応にも
- (4) 価格：22万円/月額（税込）



キャリアゼミ（事後学習付き）

進路や探究の動機づけのための出張授業サービスです。事後学習プログラムとセットで、主に進路探究の単元としての構成を行います。

- (1) 特徴：
ワークショップによる動機づけ
大学生等による出張授業
事後学習で進路単元として構成
- (2) 効果：生徒の動機づけ
教職員の授業準備の負担軽減
- (3) 活用：高校1年生～高校3年生
進路行事と合わせた事前学習
- (4) 価格：3,300円/1回（税込）

■ 学校等教育機関の課題と解決策

総合的な探究の時間は、学校や生徒によって大きな差が生まれており、この差は仕事の優先順位という構造的な課題ではないか。

「学校伴走サービス」(カテゴリ2-1)は、「探究学習の推進」と「働き方改革」の両立を目指す。

児童生徒・教職員が抱える課題

「学校伴走サービス」(カテゴリ2-1)に関連した課題

・高校生が「総合的な探究の時間に抱く印象」を調査した結果(2023年にスタディープラス社実施)によれば、42.1%の高校生が「やる意味がわからない」と回答した。一方、33.7%の高校生は「将来必要な能力が身につく授業だと感じている」と回答した。生徒の捉え方に大きな差が生まれている。

・上記の差の原因として、**探究学習の推進は「重要だが、緊急性が低い仕事」**であることが考えられる。教員の業務の多くが「緊急かつ重要」の場合、探究学習を推進することが困難だと考えられる。



※学校教員は、日頃から教科指導や生徒指導、学校行事や進路指導等の対応などの業務に従事し、その多くが「緊急、かつ、重要」だと考えられる。相対的に、総合的な探究の時間は、「重要な仕事だが、緊急性の低い」仕事になると考えられる。

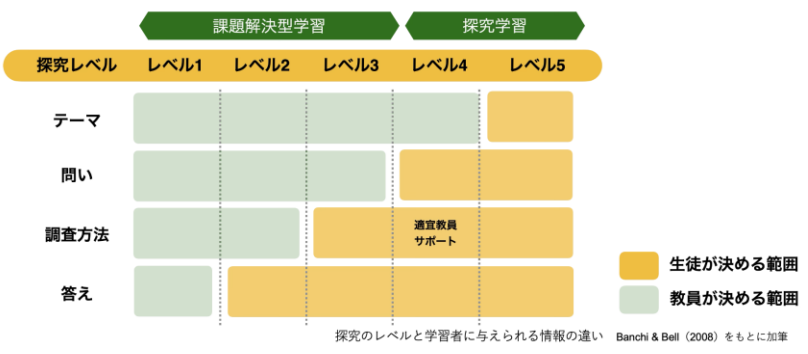
学校における探究の位置付けの分析 一般社団法人Fora (2023)

サービスが果たす役割

「学校伴走サービス」(カテゴリ2-1)が果たす役割

・生徒の現状に合わせ、学校ごとの総合的な探究の時間を行うために、教育目標、カリキュラム策定、評価に関わる**一連のカリキュラムづくりに伴走支援**を行う。

・3年間を見据えた段階的なカリキュラムを作るために、下記の探究5段階理論などをもとに、探究学習に関わる一連の教育活動に伴走を行い、複数年かけた支援を通して教職員研修やワークシート開発等を行い、教職員の負担を軽減しつつ、探究学習を推進しながら、さらに学校の自走化の支援を行う。



探究の構成要素として、問い、手続き、解答の3つの段階的な発展を定義したBanchi & Bell (2008)を発展させ、日本における「テーマあり探究」の実践を加味した構成要素4項目、5段階と再定義したモデル。

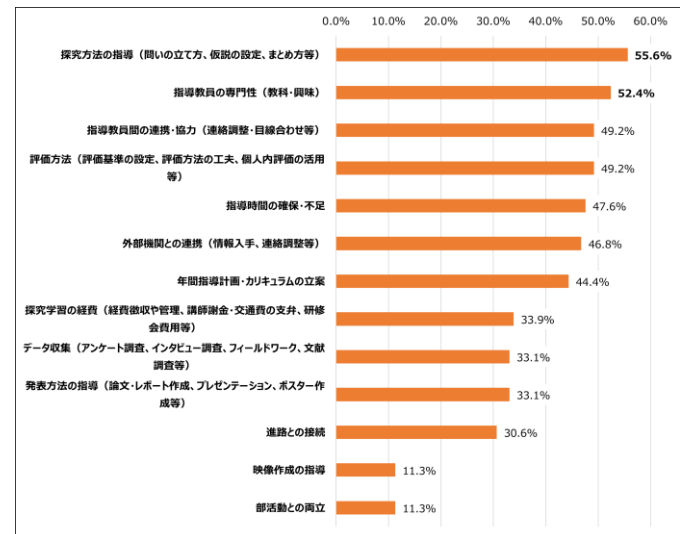
探究の5段階理論 一般社団法人Fora (2022)

「探究学習独自のスタイル」に先生方も指導に苦勞する側面が報告されるほか、指導時間の不足等も重要な課題となっている

「探究支援サービス」(カテゴリー1-1)は、「生徒の探究高度化」と「働き方改革」の両立を目指す。

児童生徒・教職員が抱える課題

「探究支援サービス」(カテゴリー1-1)に関連した課題



・福島大学のアンケート調査では、回答した福島県内の教職員の**55.6%が「探究方法の指導」に課題を感じている**ことが明らかになった。特に「教師の働きかけと生徒の自主性の折り合いをどうつけるか」、「探究活動を行う主体は生徒であるので、支援やサポートは十分に行うが、あまり協力しすぎて誰の探究活動かわからない状態になってしまう」といった回答が見られ、探究学習独自のスタイルに苦慮していると報告された。

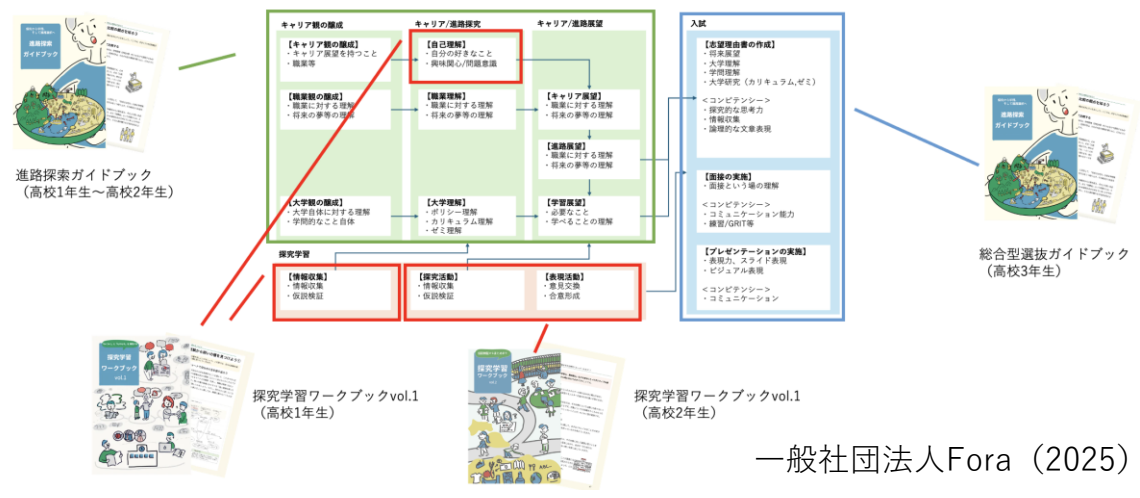
福島大学、高等学校の探究学習の指導に関するアンケート.2023年12月

・また上記調査でも**指導時間の確保不足が47.6%**であるほか、弊団体のヒアリングでも、個別指導を行う時間やリソースに限りがあり、伸ばしたい子たちが逆に浮き溢れてしまうことも課題として報告されている。

サービスが果たす役割

「探究支援サービス」(カテゴリー1-1)が果たす役割

・探究の流れやポイントを順を追って学べる**教材提供で「指導の充実」と「教材開発の負担軽減」**を目指す。特に、年内入試(総合型選抜、推薦入試等)が増加するニーズに合わせて、進路指導にも繋がる教材を提供して、これまでの進路指導との接続を図ることを目指す。
 ・すべての生徒への個別指導を探究TAや生成AIサービスで省力化しつつ、学校行事等の充実なども含めて**生徒たちのやる気を高めるための指導や、重点的な個別指導**などを通じて、探究の高度化を目指す。



一般社団法人Fora (2025)

サービスの活用風景・授業の流れ

導入校の例



導入先(視察時の様子)

学校: 県立中高一貫校
学年: 中学校2年生

行っていた探究

- ・地元自治体と連携
- ・SDGs未来都市がテーマ
- ・アクションプランを策定
- ・アクションプランを実施
- ・2月に最終発表
- ・生成AI等も活用

導入された場面

担当の先生が、 すでにあったカリキュラムを引き継いだ場面

導入の背景: 教員の異動

この学校では、前年までで中学校2年生で実施する探究学習のカリキュラムが存在していました。しかし、その先生が別の学校に異動することになってしまい、担当の先生に引き継ぐことになった。

担当の先生としては、まずはこれまでの蓄積を活かしてしっかりと学校内で実施すること、さらにはブラッシュアップしていけるようにしたいと考えていた。

導入の理由: 学校の目指す探究に伴走してほしい

すでに学校ないのプログラムは、夏休みにSDGsを調査し、夏休み明けに、地元自治体の担当者から自治体のSDGs未来都市についてインプットをいただき、11月にアクションプラン、2月に発表するなどなどの型があった。

そのため、事業者の選定するなかで、すでにある学校の取り組みを重視し、そこに伴走してくれる事業者を選定するなかで、導入につながった。

活用例

学校に合わせ、 自走化に向けた授業やワークシート開発を実施

・先生との打ち合わせで、プログラム途中の形成的評価と指導を担当し、途中段階での生徒のばらつきを課題を分析

・その結果、生徒たちのアクションが壮大過ぎる、現実味がないなどの逆算的に計画を立てられていない点や、調べ学習の内容とやりたいことの接続ができていないことなどの課題が共有されました。

・それを踏まえ、Foraにて新たなワークシートを開発し、1ヶ月半後にFora担当者から授業を行い、今後の探究のポイントのポイントを伝えました。生徒の探究の質的な向上や、学校資産として残るオリジナルワークシートの提供、探究における指導と評価の一体化の推進を目指した取り組みを行った。



開発/提供したワークシート例

■ 探究・校務改革支援補助金における活用場面

サービスの活用風景・授業の流れ

対象サービス

導入された場面

実際の活用例



「個人探究」伴走サービス

探究学習や進路選択のための学習教材を提供。一人一人が自分のテーマから、進路に繋がる探究を目指す

標準的なテキストを求めていた場面
学校内で、探究の方はあったものの、テーマ設定や問いの設定、仮説設定などの暗黙知が多く存在していた場面で導入いただいた。

担当の先生に説明を行ったほか、それをもとに既存カリキュラムの充実に向けたディスカッションを行った。生徒たちに宿題等でも取り組んでもらうこともあった。



AI添削サービス「AI-Bou」

AI添削サービス「AI-Bou」は、生徒たちの探究促進に特化したAI添削サービスです。

高校3年生の入試対策
志望理由書、推薦対策、小論対策などの指導を行っている学校に導入いただいた。他にも高校1年生や高校2年生の探究発表に向けた場面で活用いただいた。

生徒一人一人が授業外でも自由に使っていた。その結果、生徒だけで完成度を上げることができ、実際の教員の指導する際には、一層深く指導することができるようになった。



探究TAサポート

探究TAサポートは、大学生や大学院生のティーチングアシスタントによる個別相談サービスです。

個別指導のタイミングでの活用
生徒たちが探究を行い始め、個別指導が必要タイミングで活用いただいた。生徒たちの探究の進捗が開き始め、教員の数ではまかないきれない個別対応として活用いただいた。

担当する生徒の役割分担として、学校教員でボトムアップを行い、TAがトップアップが多かった。意欲の高い子に個別指導の機会を届けることで、結果として、探究コンテストの入賞などにもつながった。

キャリアゼミ
(事前事後学習付き)

進路や探究の動機づけのための出張授業サービスです。ワークショップ型プログラムで、動機づけを目指す

進路に向けた事前学習
生徒たちの進路に向けた意欲を高めるため、進路指導に向けた動機づけとしてご活用いただいた。一度に多数の人数を集めるため、学校内の負担軽減もあって活用いただいた。

大学生によるストーリーテリング型授業として実施し、進路選択理由を聞き、後日、振り返り等も含めた進路の単元として活用をいただいた。

■ 探究・校務改革支援補助金における導入実証実績

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数 **34** 学校等教育機関数 **44校**

No.	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	国立大学法人愛媛大学	愛媛大学教育学部附属中学校	愛媛県	中学校	中学2年生	学校伴走サービス
2	山口県教育委員会	山口県立田布施農工高等学校	山口県	高等学校	高校2年生	「個人探究」伴走サービス(2冊同時購入) 学校伴走サービス・探究TAサポート
3	学校法人追手門学院	追手門学院大手前中学校	大阪府	中学校	中学1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
4	学校法人 江戸川学園	江戸川学園取手中学校	茨城県	高等学校	中学1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
5	学校法人 江戸川学園	江戸川学園取手高等学校	茨城県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」・キャリアゼミ(事後学習付き)
6	国立大学法人福岡教育大学	福岡教育大学附属小倉中学校	福岡県	中学校	中学1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
7	学校法人追手門学院	追手門学院大手前高等学校	大阪府	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
8	茨城県教育委員会	茨城県立下館第一高等学校	茨城県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
9	三重県教育委員会	三重県立伊勢工業高等学校	三重県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	「個人探究」伴走サービス(3冊同時購入) 探究TAサポート・学校伴走サービス・キャリアゼミ(事後学習付き)
10	学校法人近畿大学	近畿大学附属広島高等学校福山校	広島県	高等学校	高校1年生	AI添削サービス「AI-Bou」
11	岡山県教育委員会	岡山県立西大寺高等学校	岡山県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
12	学校法人加計学園	岡山理科大学附属高等学校	岡山県	高等学校	高校3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
13	学校法人済美学園	済美平成中等教育学校(後期課程)	愛媛県	中学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
14	学校法人仁川学院	仁川学院中学校	兵庫県	中学校	中学1年生、2年生、3年生	学校伴走サービス・探究TAサポート 「個人探究」伴走サービス(2冊同時購入)
15	宮城県教育委員会	宮城県立伊具高等学校	宮城県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
16	大阪府教育委員会	大阪府立箕面東高等学校	大阪府	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
17	秋田県教育委員会	秋田県立新屋高等学校	秋田県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
18	堺市教育委員会	堺市立南八下小学校	大阪府	小学校	小学3年生、4年生、5年生、6年生	AI添削サービス「AI-Bou」
19	学校法人岩手橘学園	江南義塾盛岡高等学校	岩手県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」・学校伴走サービス
20	学校法人常葉大学	常葉大学附属菊川中学校	静岡県	中学校	中学1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
21	学校法人花園学園	花園高等学校	京都府	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
22	学校法人花園学園	花園中学校	京都府	中学校	中学1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」

No.	学校設置者名	学校等教育機関名	所在地	学校種	学年	実施内容
23	学校法人東北学院	東北学院高等学校	宮城県	高等学校	高校1年生	AI添削サービス「AI-Bou」
24	学校法人山中学園	如水館高等学校	広島県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	探究TAサポート・学校伴走サービス
25	学校法人八木学園	英心高等学校	三重県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
26	学校法人大阪信愛女学院	大阪信愛学院中学校	大阪府	中学校	中学1年生、2年生	AI添削サービス「AI-Bou」
27	学校法人安達学園	中京高等学校	岐阜県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
28	学校法人済美学園	済美平成中等教育学校(前期課程)	愛媛県	中学校	中学1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
29	学校法人日本文理学園	日本文理高等学校	新潟県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
30	学校法人旭川志峯学院	旭川志峯高等学校	北海道	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
31	学校法人鎮西敬愛学園	敬愛高等学校	福岡県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
32	学校法人三田学園	三田学園高等学校	兵庫県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
33	宮崎県教育委員会	宮崎県立都城商業高等学校	宮崎県	高等学校	高校1年生、2年生	AI添削サービス「AI-Bou」
34	茨城県教育委員会	茨城県立勝田中等教育学校	茨城県	中学校	中学1年生、2年生、3年生 高校1年生、2年生、3年生	「個人探究」伴走サービス(2冊同時購入) 探究TAサポート・学校伴走サービス
35	宮崎県教育委員会	宮崎県立宮崎東高等学校	宮崎県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	「個人探究」伴走サービス(3冊同時購入) 探究TAサポート・学校伴走サービス
36	学校法人いわき秀英学園	いわき秀英高等学校	福島県	高等学校	高校1年生	AI添削サービス「AI-Bou」
37	学校法人青池学園	原宿AIA高等学院	東京都	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	キャリアゼミ(事後学習付き) 学校伴走サービス
38	学校法人親和学園	親和中学校	兵庫県	中学校	中学1年生、2年生、3年生	キャリアゼミ(事後学習付き)
39	学校法人親和学園	親和女子高等学校	兵庫県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
40	学校法人常葉大学	常葉大学附属橘高等学校	静岡県	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
41	学校法人常葉大学	常葉大学附属橘中学校	静岡県	中学校	中学1年生、2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
42	静岡県教育委員会	静岡県立天竜高等学校二俣校舎	静岡県	高等学校	高校2年生、3年生	AI添削サービス「AI-Bou」
43	学校法人北海道科学大学	北海道科学大学高等学校	北海道	高等学校	高校1年生、2年生、3年生	「個人探究」伴走サービス(2冊同時購入) 「個人探究」伴走サービス(3冊同時購入) キャリアゼミ(事後学習付き) 探究TAサポート
44	茨城県教育委員会	茨城県立古河中等教育学校	茨城県	中学校	中学2年生	AI添削サービス「AI-Bou」

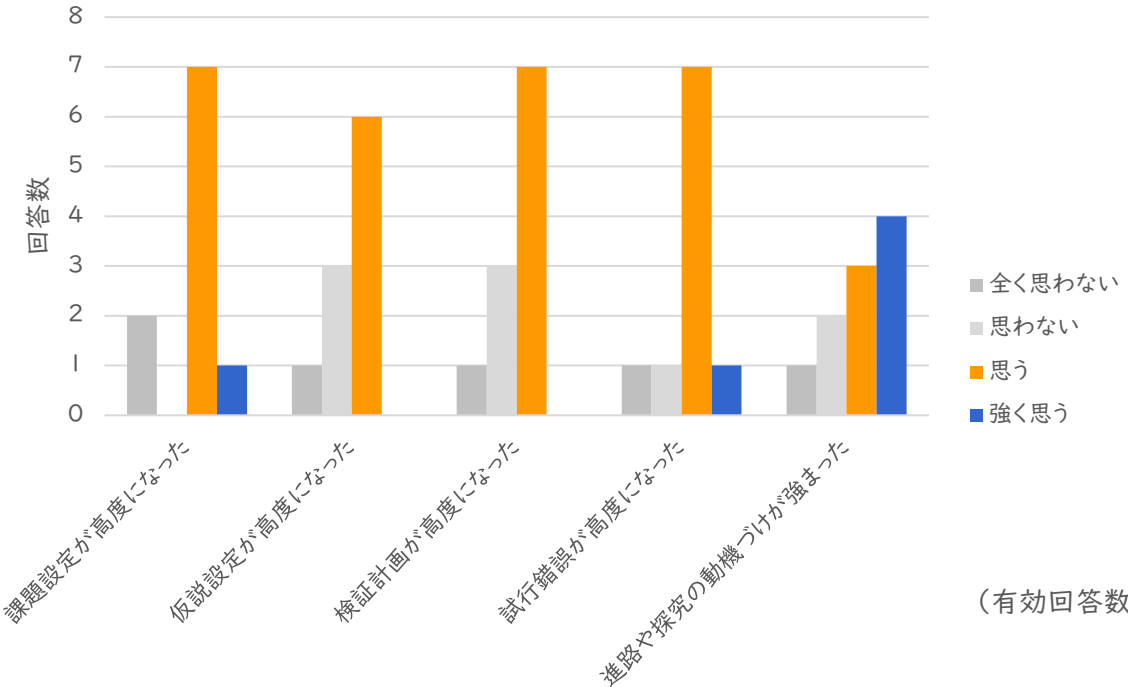
■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

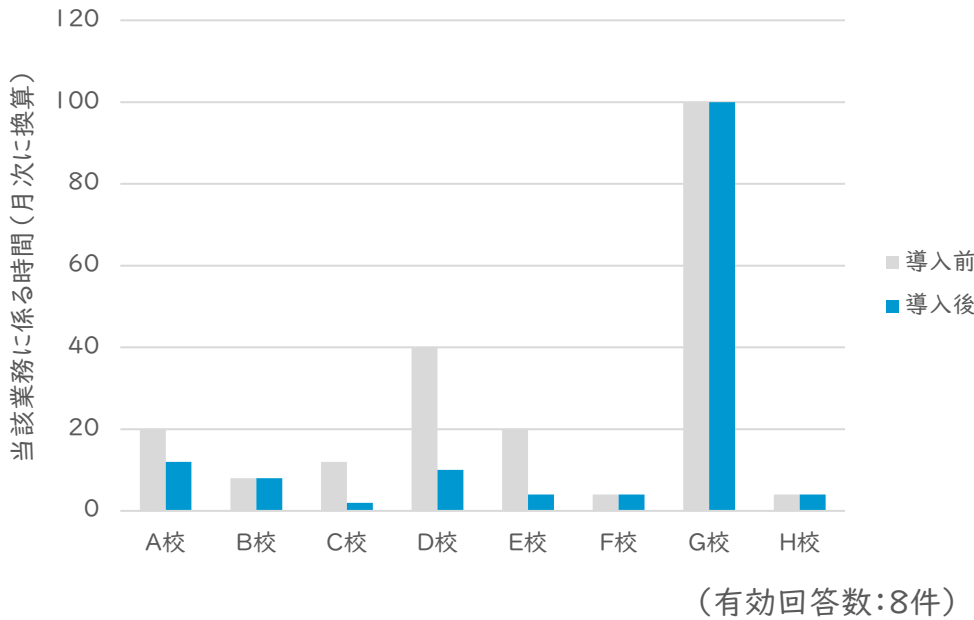
「探究の高度化」と「教職員の業務効率化」が示唆される

教員に対するアンケート調査の結果、本サービスの導入で、生徒たちの探究の高度化を評価が多かった。また動機づけ向上の評価が特に強かった。
 また、教職員の業務効率化・省力化については、成果を出せた学校とそうではない学校が分かれた。

本サービスの導入で、
 生徒たちの探究は高度化したと思いますか？



本サービスに関わる業務
 (探究学習/進路指導など)の時間を
 教えてください



定性的効果検証

探究支援サービスの効果

サービスの導入を通して、生徒たちの動機づけに繋がることを創出できた可能性が示唆された。

また、学校伴走等も通じて、教職員の業務削減や省力化はもちろん、気づき等を与えていることも示唆された。

初期のワークショップやキャリアゼミなどの身近な話題を通して、生徒たちが社会とかかわることや自己の進路について考えるハードルが下がるようになり、前向きに活動できるようになったため。

TAの方々に指導に入っていて、担任団の手の回らないところのサポートや、教員にはない視点を提供していただけで、大変助かりました。本校生徒たちも意欲的に質問をして取り組むことができていると思います

外部講師からの講話は、生徒にとって刺激があり、学びの見通しや探究の際の参考になっていたように思う。事前に、一人一研究をしていたこともあり、それに加味するような形で実施できたことが良かったと考える。

自身の制作物に対してすぐフィードバックがもらえて、モチベーションの維持や向上につながった。

今まで一人で行っていた評価が、AIを使うことによって、かなりの業務が削減された。

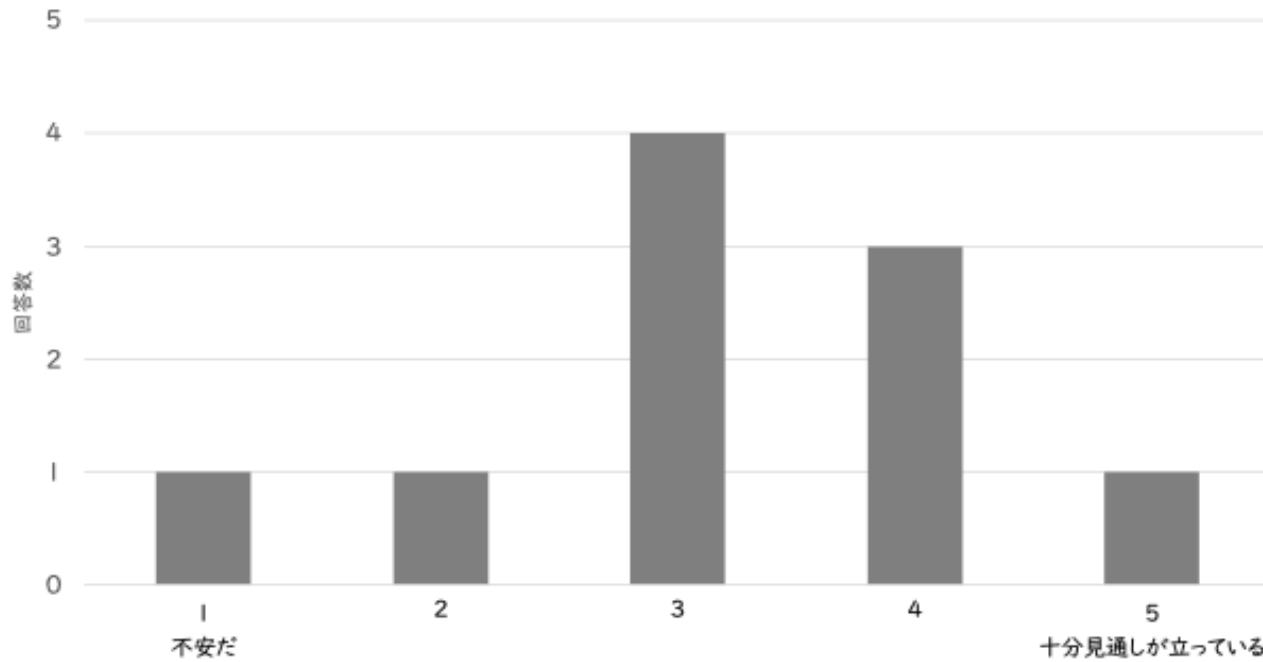
一緒にルーブリックを考えたことで、探究に対する解像度が上がった。こうやって考えるのかと気づきがあった。

学習以外の活動が非認知能力の伸長に関わることを実感させられたから。

学校の自走化に向けた成果

次年度以降の自走化に向けては、成果を出せた学校もあった。その理由に「生徒たちの探究の高度化」や「教職員の指導」が挙げられた。ただし、全体として見れば、自走化に向けて課題も残すことになった。

来年度以降の学校での自走はできそうですか？



(有効回答数: 10件)

教員側のスキルが上がり、指導の深みがでてきたので。

来年度は、自走に向けて探究活動の改革をする年度だが、担当部署内でもまだ詳細を検討している段階であり、今後どうなるか読めない状況である

グループにより自走の精度は異なりますが、相互発表などを通して刺激し合えれば活動はできると思います。課題はまだ多くありますが

学校での費用の件、カリキュラムなどから現段階ではなんとも言いえない状況である。

公立高校の引き継ぎの課題、年間計画をもとに伴走する意義、年間計画のデザインに伴走する意義についてコメントをいただいた。



学校管理職の先生

本校だと、探究のグランドデザインを書いているが、このグランドデザインが大事だと思う。
(探究の支援では)人を派遣する取り組みや、3回シリーズの授業や専門家の派遣も多く、それらを無料で来てくれる取り組みもある。もちろん、それを全部集めれば年間計画自体は立てられるが、探究に関しては学びのデザインこそ重要。この年間計画のデザインを立てること自体を一緒に伴走してほしい。ここのデザインすることが難しい。

(事業者を選定する過程で)事業者によってサービスが違い、パッケージ化している事業者もあれば、探究をブラッシュアップしてくれるようなところがあると知った。プランの違いだと思うが私たちは伴走を使わせてもらった。そもそも、カリキュラムの去年やったカリキュラムを繰り返しやりたい想いがあったので、自分たちの意を汲み、それを探究として深くするために、相談に乗ってもらうためにお願いした。

ミーティングの時に全体の構想や授業の位置付けを伝え、それに一つずつ対応してもらいやり方をやらせていただいた。
そのなかで、自分たちのカリキュラム内で、探究スキルを補完する授業もスポットでお願いした。また、学校内では、どういう能力を子どもたち育み、それをどういう学習計画で進めるカリキュラムはあったが、それに必要なスキルはなにかを定義してくれた。それをやらせてもらってすごく助かった。



探究担当の先生

学校伴走では、自走プラン(どの程度、何年かけて自走を目指すのか) 推進プラン(どの程度推進するのか)の関係者合意が重要だった。

加えて、学校伴走は生徒単位ではなく学校単位のため、地方小規模校に対して、どのように持続的な支援を行うかは今後の検討課題となった。

直面した課題

顕在化した課題

自走プラン/推進プランの明確化

翌年度以降の自走を目指す上で、自走のための期間(1年~3年)や自走を目指す方向性、入試等も踏まえた推進の程度について現場や学校内で意思統一をすることが重要であった。加えて、次年度以降の組織体制や予算等の見通しがネックとなることもあった。

顕在化した課題

地方小規模校の支援体制の検討

学校伴走サービスは、生徒単位ではなく、学校単位でのサービス提供となるため、生徒一人当たりの単価で見れば、地方小規模校からすれば、大きな負担となる。一方で、同種同様のサービスを提供という性質や大規模校からの価格転嫁とすることも困難ため、次年度以降の継続については、検討が必要となった。

解決するための改善策

事業者の運用改善

1年間~3年間の自走プランや自走の程度、またどのように推進を目指すのかについては、学校管理職と学校担当者も含めて、擦り合わせることを重視していく。

制度改善等への期待

現場、学校長、教育委員会の意向が必ずしも一致しない領域のため、学校側や行政サイドで事業者に委託する場合には調整が重要。

事業者の運用改善

地元企業や地元自治体等との連携を行い、別スキームでの検討ができないか。また寄付等の共助的な支援も有効と思われる。

制度改善等への期待

大規模校との価格転嫁も難しいため、自治体等との協議、個人版や企業版ふるさと納税等を活用した学校支援スキーム、地域おこし協力隊等と連携したスキームなどが検討できると良いのではないかと。

円滑な事業遂行のために、教育委員会との連携が重要になる場面があった。次回以降は検討されたい。

また、ツール提供を行うことで、学校伴走の意義が顕在化するため、双方セットにした提案を行うことが重要だと思われる。

直面した課題

導入時の課題

公立高校における教育委員会担当者との接続

標準フロー等に基づき、学校から教育委員会等に起案するステップを定義して案内。一方で、学校実施時に都道府県教育委員会での案内を待つという自治体があった。

顕在化した課題

情報セキュリティ設定

初期設定を行う上で、情報セキュリティに抵触したため、学校ごとに設定を行う必要があった。場合によっては、学校内にとどまらず、教育委員会でホワイトリストの追加を行なっていただく必要があった。

顕在化した課題

学校ごとルーブリックの策定

AI-Bouのサービス利用を行う上では、ルーブリックの設定が必要不可欠であり、すでに標準ルーブリックを搭載した上でサービスリリースしていた。しかし、一部学校からは、学校自体にルーブリックがないものの、導入を機にルーブリック整備をしたいニーズが浮上し、ルーブリック開発が先行しないとサービス利用に繋がらないことがあった。

解決するための改善策

事業者の運用改善

事業者間で連携を行い、教育委員会等については標準的なフロー等を整備できると良いのではないかと。

事業者の運用改善

情報セキュリティに関する事前確認を徹底し、ホワイトリストの追加等の対応をスムーズに行えるようにした。

事業者の運用改善

すでに本年度から学校伴走のサービス対象外であっても、サポート対象とした。今後は、セットでの導入提案を行うことで、指導と評価の一体化を推進したい。

制度改善等への期待

今後、教育委員会や各学校等への通知などで円滑な連携が求められる。また、高等学校については、学校長の決裁とする要件緩和も検討されたい。

制度改善等への期待

各都道府県や市町村単位でのサービス導入のセキュリティガイドラインが整備されると、円滑に進むと思われる。

制度改善等への期待

特になし

■会社概要

社名	一般社団法人Fora
代表	藤村 琢己
設立年月	平成28年4月1日
本社	東京都台東区蔵前3丁目11番1号 3階
資本金等	13,400,000円
売上高等	58,000千円(2024年度)
従業員数	4名
事業内容	一般社団法人Foraは、中学校や高校を対象に「生徒の学び続ける意欲と能力を高めること」を教育目標におき、50校超の学校に対して、探究学習プログラムやキャリア教育を実施しています。これまで3万人を超える高校生にプログラム提供を行ってきたほか、企業等との高校生向けのワークショップ新規開発、学校教育へのコンサルティングなどを行っています。本格化する探究学習に向けたカリキュラム検討、教材提供、授業実施等の支援を行っています。

■お問い合わせ窓口

担当:藤村 琢己(代表理事)

:渡邊 伶 (理事:学校伴走事業担当)

:山下 敬大(理事:協働事業担当)

電話:03-6822-4100

Mail:info@fora.or.jp